

令和7年度使用

# 中学校用教科用図書研究資料

理 科

北部採択地区協議会

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 理科の目標を達成するために、学習の流れやポイントを「見える化」するとともに、単元内に「じっくり探究」を設け、より深く探究することができるようにしている。また、章ごとに「Before&After」があり、生徒が見通しをもって学習に取り組み、学習前後の自分の考えの変容を実感できるような構成・配列等の工夫が見られる。
4 大日本	(1) 理科の目標を達成するために、単元の導入において「これまでに学習したこと」「これから学習すること」を設け、既習事項を振り返り、見通しをもった学習を行うことができるようにしている。また、単元末では「探究活動」に取り組み、既習事項を使って新たな課題を解決することにより、さらに学びが深くなるような構成・配列等の工夫が見られる。
11 学 図	(1) 理科の目標を達成するために、「探究のページ」において、探究の手法を段階的に理解しやすい構成にしている。また、各単元の初めに「学びのあしあと」「Can-Do List」等を設け、生徒が単元全体や学習内容に見通しをもって取り組み、学習後にどのような力が身に付き、考えがどう深まったかを実感できるような構成・配列等の工夫が見られる。
17 教 出	(1) 理科の目標を達成するために、巻頭に「探究の進め方」の折り込みを設け、本文ページを開いた状態でも、探究の過程を確認しながら学習できるようにしている。また、章の導入と章末において、「学習前の私」「学習後の私」をそれぞれ設け、学びの深まりを生徒自身が認識できるような構成・配列等の工夫が見られる。
61 啓林館	(1) 理科の目標を達成するために、単元の導入において、「学びの見通し」「学ぶ前にトライ!」を設け、様々な知識を活用して解決する問いを設定し、課題意識をもって学習に取り組むことができるようにしている。また、単元末に「学んだ後にリトライ!」で同じ問いを設け、単元を通した学びを科学的に探究できるような構成・配列等の工夫が見られる。

## 2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各節の導入の「レッツ スタート！」において生徒が自ら気付きを得られるように問題を示している。また、「解決方法を考えよう」を設定し、生徒に協働的かつ主体的な学習を促したり、学びを深めたりするような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、章末に「学んだことをチェックしよう」を設定するとともに、単元末に「学習内容の整理」「確かめ問題」「活用問題」を設け、自己チェックすることで、理解できるまで学習しやすくなるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「学びを生活や社会に広げよう」において、学習したことを他教科と関連付けたり、日常生活や社会に結び付けたりし、自分の考えを表現できる場面を設定するなどの工夫が見られる。</p>
4 大日本	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各学年で重視する探究の過程を示し、探究の場面を明確にすることで、主体的な学習を促している。また、「話し合おう」などの対話的活動を設定することで、深い学びが実現できるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、つまずきやすい内容では、「つながる」で他学年、他教科との関連や「例題」で解き方の見本を示し、「章末問題」「単元末問題」へと段階的に取り組むことで、基礎的・基本的な学習内容を確認できるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各節で身に付けた問題解決の能力を、単元の最後の「探究活動」において結び付け、連続性をもたせることで、3年間を通して科学的に探究するために必要な資質・能力が育成できるような工夫が見られる。</p>

11 学 図	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、導入場面や仮説の設定、計画立案の場面等で、生徒の話合いのイラストを提示し、多様な考え方に触れるようにしている。また、探究の手法を段階的に示すことで、生徒が問題を発見し、話し合いながら探究を進められるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、探究のページと、探究活動の後に学習した内容を簡潔にまとめたページの体裁を区別し、単元末には、「学習のまとめ」を設定することで、生徒が身に付けるべき学習内容が理解しやすくなるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、観察・実験の明確な結果例や考察の視点を例示したり、コラム「理路整然」を設定し、科学的探究の手法を継続して学んだりすることで、科学的な考え方の理解を深めるような工夫が見られる。</p>
17 教 出	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、生徒キャラクターの吹き出しをもとに課題を自分事として捉えられるようにしている。また、「疑問から探究してみよう」を提示し、課題の解決に向けて、生徒が対話的に学習を進め、深い学びを実現できるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、学習の振り返りとまとめができる「要点をチェック」や、理解度を確かめる問題を、章や節の最後の小さなまとまりから、学年末の大きなまとまりへの5段階で設定することで、学習内容を定着させるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、実験結果の欄が生徒にとって書き込みやすいように提示されており、さらに「私のレポート」の具体例を示すことで、それらを参考に論理的に自分の考えをまとめ、結論を導くことを促すような工夫が見られる。</p>

<p>61 啓林館</p>	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各単元に1つ「探Q実験」を設定し、「探Qシート」により生徒の主体的な学習を支援している。また「Action活用してみよう」など、既習事項を活用して思考・表現する場面を設定することで学びを深めるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、つまずきやすい内容を「例題」で解説し、同じ考え方で解ける「練習」に取り組んだり、勘違いしやすい事項は「なるほど」で正しく理解できるように二次元コード等で情報を示したりするなどの工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、これまで学んだことから生じた疑問を「みんな探Qクラブ」で解決していく過程を通して、日常生活にある科学を意識できるようにし、探究を継続・発展させられるような工夫が見られる。</p>
---------------	--

### 3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、1見開き1時間構成となっており、授業の見通しを立てやすくなっている。また、単元や章の導入場面で「スタート動画」の二次元コードを設け、生徒の学習意欲を喚起できる工夫が見られる。
4 大日本	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、生徒キャラクターを用いて、多面的に考えるためのヒントを提示している。また、実験のページに着目点が設定されており、生徒が見通しをもって学習に取り組める工夫が見られる。
11 学 図	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全ページに二次元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、章ごとに大きな写真やSDGsのアイコンを掲載し、生徒が学習内容と日常生活との関連を意識できる工夫が見られる。
17 教 出	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、教科書の文字を大きくし、視覚的にゆったりとした紙面になっている。また、課題と結論を赤囲みで強調することで、生徒が課題と結論の整合性を意識できるような工夫が見られる。
61 啓林館	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、学習の各段階でICTをどの場面でどのように使うのかを明記している。また、章ごとに設定した「Reviewふり返ろう」では、知識・技能や思考力・表現力を意識できるような工夫が見られる。

#### 4 地域課題への対応

〔観点4〕 これまでの学びや経験を生かすとともに、自分の住んでいる地域と関連付けて考えられるような工夫が見られたり、本地域の実態に配慮した工夫が見られたりしているか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) これまでの学びを生かすために「これまでに学んだこと」が示され、本文と関連付ける工夫が見られる。また、「学びをいかして考えよう」が示され、地域や日常生活と関連付けて考えられる工夫が見られる。さらに、本地域の実態への配慮では「水害のシミュレーション」や「防災特集」が示され、防災意識を高める工夫が見られる。
4 大日本	(1) これまでの学びを生かすために「思い出そう」が本文の横に示され、これまで学習した内容と関連付ける工夫が見られる。また、「くらしの中の理科」が示され、地域や日常生活と関連付けて考えられる工夫が見られる。さらに、本地域の実態への配慮では「安全マーク」が示され、防災・減災への意識を高める工夫が見られる。
11 学 図	(1) これまでの学びを生かすために、「ふり返ろう・つなげよう」が示され、内容を関連付ける工夫が見られる。また、「SDGsを意識して脱炭素社会へ」や「補充資料」では、地域や日常生活と関連付けて考えられる工夫が見られる。さらに、本地域の実態への配慮では、本文中に災害等の説明が示され、防災・減災に気付くことができる工夫が見られる。
17 教 出	(1) これまでの学びを生かすために、「これまでの学習」が本文中に示され、内容を関連付ける工夫が見られる。また、「ハローサイエンス」が示され、地域や日常生活と関連付けて考えられる工夫が見られる。さらに、本地域の実態への配慮では、災害に特化した章が示され、防災・減災について学習することができる工夫が見られる。
61 啓林館	(1) これまでの学びを生かすために、章の初めに「つながる学び」を示し、二次元コードで既習事項を確認できる工夫が見られる。また、「防災減災ラボ」「お料理ラボ」では、地域や日常生活と関連付けて考えられる工夫が見られる。さらに、本地域の実態への配慮では、「防災減災ラボ」において身近で発生しうる災害に対し知識を生かせる工夫が見られる。